

2025年11月7日、「省エネ診断」を実施しました

本日は、エネルギーの無駄や非効率な箇所を調査する「省エネ診断」を実施しました。効果的な省エネ施策を導き出すことが目的です。

省エネ診断では、リコージャパン(株)の専門家が工場及び事務所内を4時間程掛けてウォークスルーで調査し、照明や空調などを細かく確認していきます。

当社では、主に以下の事柄を確認しました。

- ・ 空調機は適切に温度管理されているか？
- ・ 照明は効率的に設置されているか(必要以上に明るすぎないか)？
- ・ 工場内に無駄な熱を放出する設備・配管はないか？
- ・ 空気の流れは適切にコントロールされているか？
- ・ 電力を使用する設備(コンプレッサーなど)は効率的に動作しているか？

以下は省エネ診断の様子です。



各部屋の空調運用状況を確認



レトルト殺菌機の放熱温度を測定



各部屋の照度を測定



空調室外機を確認



空調機のフィルターを確認



蒸気・熱の排出状況を確認



コンプレッサーの稼働状況を確認



スポット空調が活用されています



床置きタイプの除湿器も活用

当社生産工程の特徴

当社生産工程には以下のような特徴があります。省エネ施策の提案はそれを踏まえたものになりそうです。

- ・ 工場内では冷房と除湿は使用するが、暖房を使用することはほぼない。
- ・ 多量の蒸気が出る工程もあり、湿度管理が非常に難しい。
- ・ また部屋毎の温度差が大きく、空気の流れが空調負荷に影響を与えがち（品質管理上、低い室温で作業する工程や、夜間および週末も空調稼働が必要な部屋があります）。

診断後の所感

省エネ診断後、リコージャパン(株)から以下のような所感が述べられました。

「明らかな無駄はないと思われるが、人感センサーの設置が省エネに繋がるとされる個所があった。」

「蒸気配管等の保温・断熱強化や揚場の排気用フードの拡張により排熱の室内拡散を抑制することで、空調負荷の軽減が期待出来る。」